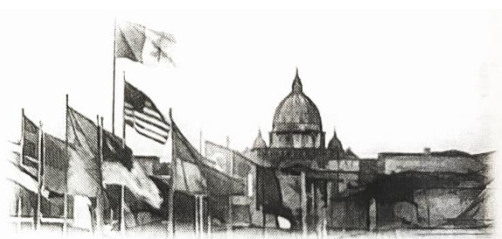


そう だい だいそうとう
総 題 「大争闘」

いけます ます お
池増 益男

だいじゅういつか さ せま あら
第 11 課 差し迫った争い



いち あんそくにちご
1. 安息日午後

あんしよせいく
[暗唱聖句]

しんり かれ せい もの みことば しんり じゅうなな じゅうなな しんきようどうやく
真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。(ヨハネ 17 : 17、新共同訳)

こんしゅう れいはい あらそ まな かみ りつぼう じつかい とく
★今週は礼拝についての、これからの争いについて学びます。サタンは神の律法（十戒）、特
あんそくにち な かみ ちょうせん あんそくにちれいはい にちようびれいはい せかいてき あらそ
に安息日を無くすために神に挑戦してきます。安息日礼拝か、日曜日礼拝かが世界的な争いの
ちゅうしん あんそくにち きら そうぞうしゅ にく あんそくにち
中心になるでしょう。サタンが安息日を嫌うのは、創造主を憎んでいるからです。安息日は
そうぞうしゅ れいはい ひ いつわ れいはいび にちようび かみ たみ お つ
創造主を礼拝する日であるからです。サタンは偽りの礼拝日（日曜日）を神の民に押し付け、
にちようびれいはい したが かみ たみ けいざいてき あつりよく はくがい とうごく しけいはんけつ くる
日曜日礼拝に従わない神の民を※1経済的な圧力、迫害、投獄、死刑判決をもって苦しめるので
す。でも神は神に従う者たちに勝利を与えられます。

いちけいざいてき あつりよく はくがい とうごく しけいはんけつ か もの で き おい つ くる
※1経済的な圧力、迫害、投獄、死刑判決：買い物が出来ないようにすること、追い詰めて苦し
めること、死刑にになってしまうこと

に にちようび けいじ さいご あらそ
2. 日曜日：啓示の最後の争い

もくしろくじゅうん なな きゅう じゅういち よ
★黙示録 14 : 7、9、11 を読んでください。

かみ かみ えいこう き かみ とき てん ち うみ みず みなも つく
「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られた
かたを、伏し拝め」（7 口語訳）、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は」（9
こうごやく けもの ぞう おが もの な こくいん う もの ひる よる やす え
口語訳）、「獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得
られない。」（11 口語訳）

せいく かみ とき お じだい てんちそうぞう かみ おが けもの にちようれいはい
これらの聖句から神のさばきの時（終わりの時代）には天地創造の神を拝むか 獣（日曜礼拝を
き ほうおうけん けんりよく おが れいはい たたか お
決めたローマ法王権＝サタンの権力）を拝む礼拝をするかについての戦いが起こることがわか
ります。神の戒め（安息日を含む十戒）を守る者たちに 龍（サタン）は戦うために出て行き

ますが（黙 12 : 17）、神の戒めを守る神の民は「イエスの信仰」によって忍耐しながら打ち勝つのです（黙 14 : 12）。

3. 月曜日：来るべき危機

黙示録 13 章はサタンの神の民に対する最後の戦いの預言です。サタンの戦略（戦う計画や方法）は天においても地においても変わりません。うそで誘惑し、それが成功しないと力でつぶそうとします。カインによるアベルの殺害、旧約聖書の本当の預言者に対する迫害、初代教会、中世の暗黒時代には神に従う者たちに対してサタンは恐ろしい※1迫害が続きました。最後の時代には世界的なものとなります。最初は買い物ができなくなり、獣の印（偽の日曜礼拝）に従わない者に死刑が言い渡されます（黙 13 : 15、17）。しかし、神に従う神の民は最後まで小羊イエスに従っていきます（黙 14 : 4）。

4. 火曜日：獣の正体（その1）

★黙示録 13 : 1、2を読んでください。

「（そして、海の砂の上に立った。）わたしはまた、一匹の獣が海から上って来るのを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のようにあつた。龍は自分の力と位と大いなる権威とを、この獣に与えた。」（口語訳）

① 龍 → サタン

② 海から上がって来た獣 → ローマ教皇権

サタンは今まで神の民を苦しめて来た7つの頭（国々）の勢力（支配する力）や10の角（王）、政治権力をローマ教皇権に与えます。

③ 神を汚す（黙 13 : 6 口語訳）

・司祭は罪を赦す力があり（罪を赦す力は神だけです）、ローマ教皇は地上における神の代理者であると主張する



だいいち けもの
第一の獣

5. 水曜日：獣の正体（その2）

この獣の正体について黙示録はなんと言っていますか。

①「この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた。…そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。」(13:5、7 口語訳)

預言上の原則 (ヘブライ暦 1月=30日) 42ヶ月

||

1260 (せんにひやくろくじゅう) 日

||

1260 (せんにひやくろくじゅう) 年

→ローマ教皇制による迫害期間

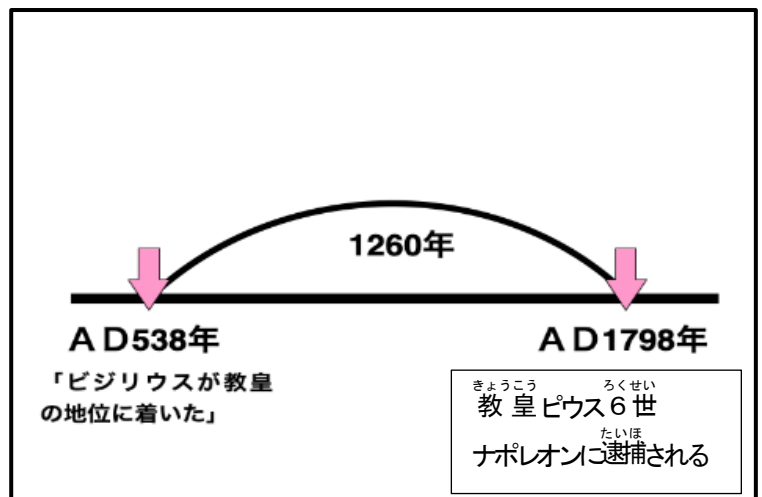
②「とりこになるべき者は、とりこになっていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがある。…致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。」

(13:10、12 口語訳)

1260 (せんにひやくろくじゅう) 年間 (538 (ごひやくさんじゅうはち) - 1798 (せんなびひやくきゅうじゅうはち)) 神の民を迫害

し続けた獣 (ローマ教皇制) はナポレオンによって捕虜にされ (捕まえられ)、やがて亡くなりこの※1迫害の預言は終わりました。しかし再びローマ教皇制は復活し現在に至っています。ローマ教皇庁は日曜日が主の日 (聖日) であり、この日を守る事が人間の自由と祝福の源であると強く言っています。

※1迫害: 追い詰めて苦しめること



6. 木曜日: 地中から来た獣

第一の獣が海 (人口の多い所) から対して、第二の獣は地 (人口の少ない所) から登場します (黙示録

13:11、12)。この獣は先の獣 (ローマ教皇制度) が「死ぬほどの傷」を受けた1798 (せんなびひやくきゅう

じゅうはち) 年ごろに登場します。それに当てはまる人口の少ない地域から起こ

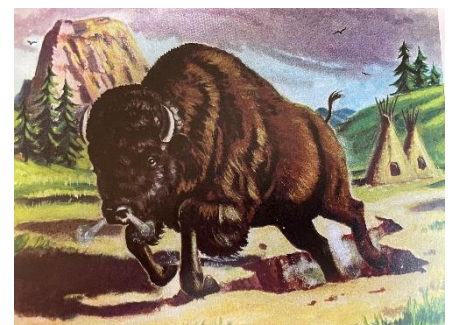
った国は、1776 (せんなひやくななじゅうろく) 年にイギリスから独立を宣言したア

メリカ合衆国に当てはまります。子羊のような2本の角 (信仰と政治の

自由) を持つこの国が、やがて第一の獣 (ローマ教皇制) と手を組んで、

人々に対してローマ教皇に従うように※2強制すると預言されています。

※2強制する: 支配者の力によって従わせること



だいに けもの
第二の獣

なな きんようび けんきゅう
7. 金曜日：さらなる研究

はな あ しつもん
＜話し合いのための質問＞

★まいしゅうあんそくにち そうぞうしゅ かみ れいはい まいにち しんこうせいかつ よろこ ちから あた
★毎週安息日に創造主なる神を礼拝していることが、毎日の信仰生活に喜びと力を与えているでしょう

か。

しょうらい にちようれいはい きようせい したが はくが い くわ かみ したが
将来サタンが日曜礼拝を※2強制し、従わないものに迫害を加えるようになって、神に従うことができる
ためにどうしたら良いかを話し合い、励まし合いましょう。